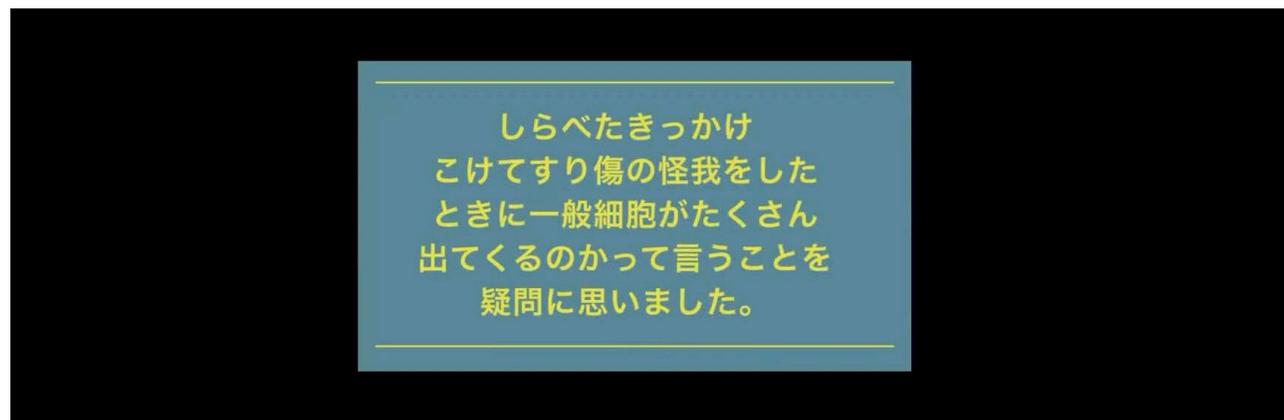


特異な才能のある児童生徒に対する 教育課程の柔軟化の必要性

愛媛大学 隅田学

多様な「子供」の実態

特異な才能のある児童生徒は年齢や地域を問わず私たちの周りにいる



愛媛大学Kids Academiaに参加した子供（小学1年）の例

愛媛大学
Ehime University
教育学部

子どもの“もっど”に応える教育
KIDSYACADEMIA

みんなのワクワクが
きみのワクワクが

メンバー登録して
研究発表に参加する

Ehime University
Kids Academia
since 2010

<https://kids-academia.com/>

才能のある子供たちの行動特徴は、教科学習や生活など 様々な場面で見られる

国語・言語活動

- ・語彙力が高い
- ・本に関する考えや心情を話すのを楽しむ
- ・正確かつ明確に説明する
- ・批判的に読解する
- ・多様な方法で自分の考えを表現する

など

- ・長い時間、何かにこだわり、熱中する
- ・同年齢の子どもと比べて、語彙が豊富で言語能力が高い
- ・早熟で、学習が早い
- ・人とは異なる経験や行動をするのを好む
- ・理想主義であったり、正義感がある
- ・好奇心が強く、質問が止まらない
- ・何かをするときによりよい方法を考え出す
- ・心的発達アンバランスである
- ・自分や他人が何かをできなかつたり、遅かつたりするのにイライラする
- ・興味のない分野で極端に学業不振になる
- ・他人の感情や期待に過敏であり、傷つきやすい

など

先生方のご経験から、次に挙げるような行動特徴のある児童（全てに当てはまるというのではなく、多くに当てはまる児童）は1学級（30名を想定）にどれくらいの割合いると思われますか。

参考：令和6年度 特定分野に
特異な才能のある児童生徒への
支援の推進事業（国立大学法人
愛媛大学）の予備調査より

算数・数学

- ・ある問題の考え方を別の問題に応用する
- ・粘り強く解法を求める
- ・原理をすぐに理解する
- ・関連する情報としない情報とを簡単に区別する
- ・問題を解くために複数の解き方を思いつく

など

社会

- ・世界や時事問題に強い好奇心を持つ
- ・過去と現在とを結びつけて考える
- ・世界の文化の違いを理解し、価値を認める
- ・特定の歴史時代に強い関心を示す
- ・信頼できる情報源の重要性を理解している

など

多様な「才能」が素質と環境との相互作用を通して、様々な形で現れ、変化する

多様な観点を交差する「才能」

※知能、特定の学問、創造性、芸術、リーダーシップ など

様々なレベルの「才能」

※mildly, moderately, highly, exceptionally, profoundly

課題解決を通じた「才能」行動の変化や
人・課題・状況の相互作用による影響
(Renzulli, 2012; Sternberg, 2024)

才能のある子供をめぐる神話（一部抜粋）

- 才能のある子供はなんでも良くできる
- 才能のある子供は傑出した大人になる

など

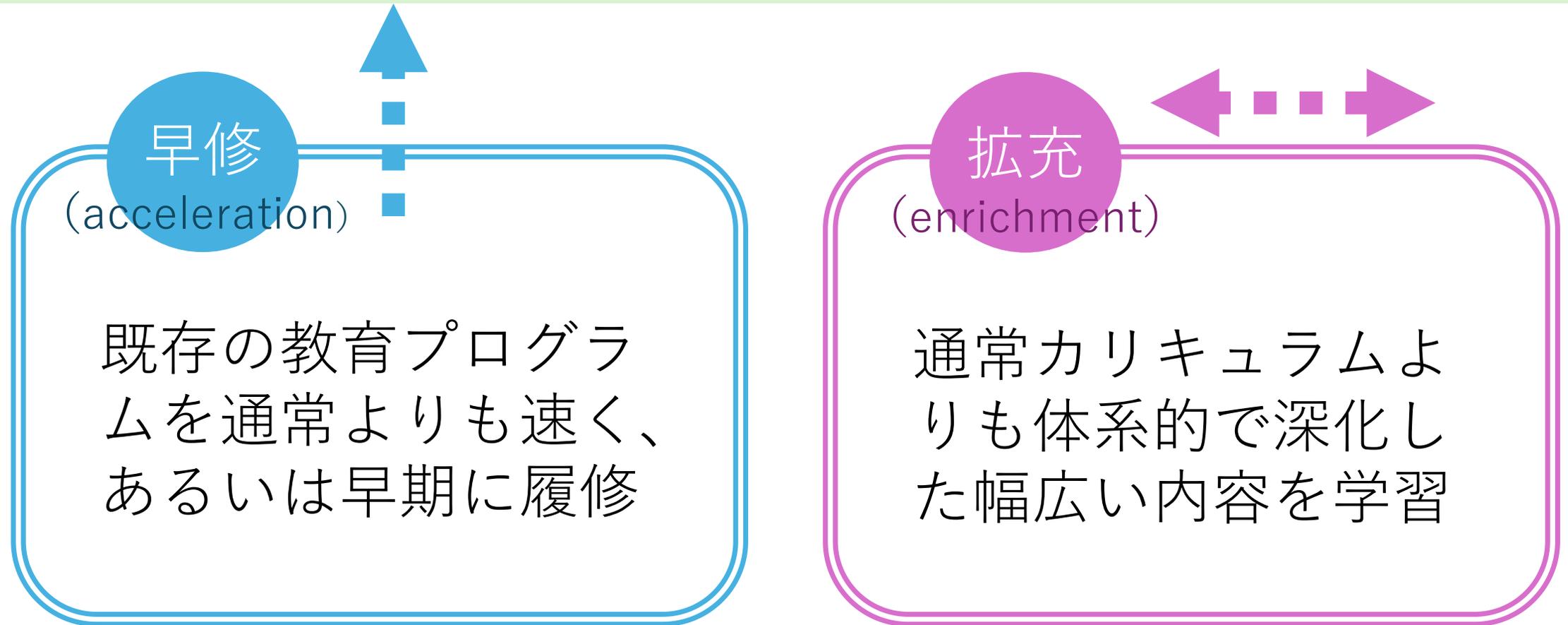
Winner, E. (1996). *Gifted children: Myths and realities*. Basic Books.

Amend, E. R., et al. (2023) *A parent's guide to gifted children*. Gifted Unlimited. より

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議.
(2022). 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議審議のまとめ

「児童生徒を特定の基準で選抜し特別なプログラム等を提供することを目指すのではなく、才能のある児童生徒を含む全ての子供たちが多様性を認め合い、高め合える指導・支援の在り方を考えていくことを基本的な考え方としている。」 (p. 3)

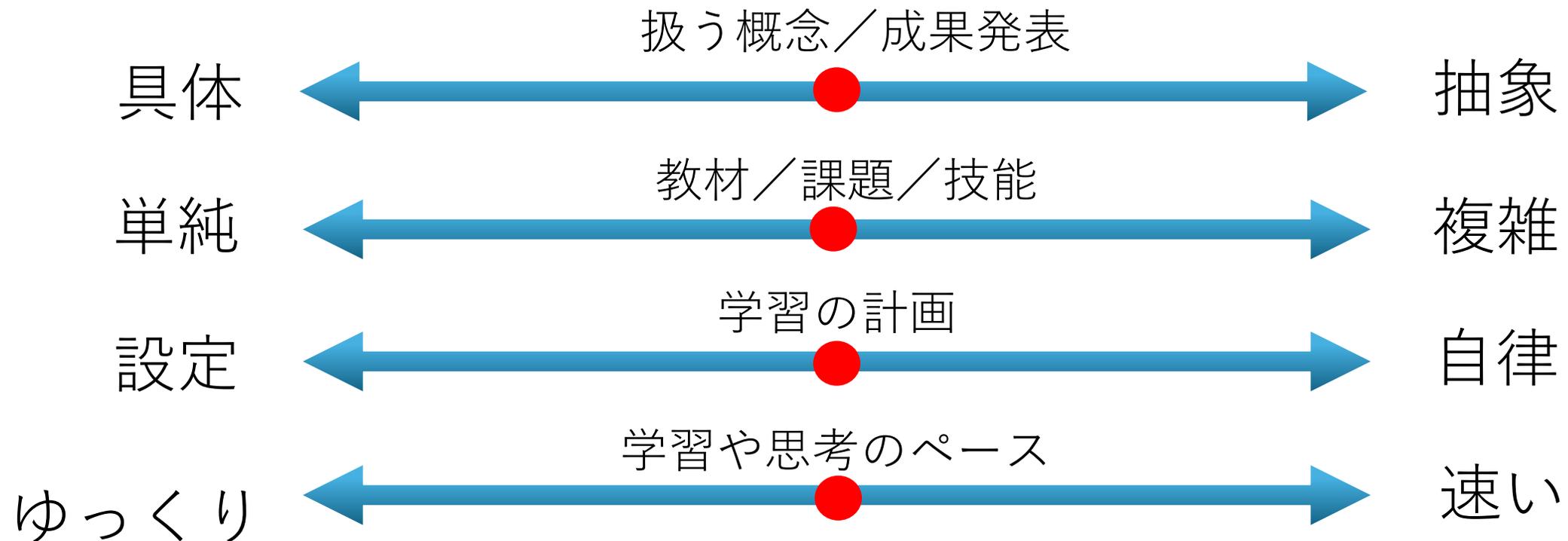
才能のある児童生徒のニーズに応じた教育課程の主要な形態



特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議. (2022). 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議審議のまとめ (pp. 5-6) より

特異な才能のある児童生徒を包摂した授業の 「柔軟化（differentiation）」

子供たちのレディネス，興味関心，学習歴などを考慮し，授業の内容や方法などを弾力的に変化させる



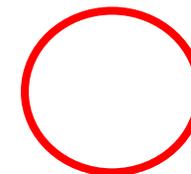
特定分野に特異な才能のある児童生徒を対象とした教育支援の類型化

（隅田, 2025）

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a	Type I b	Type I c
学校内 Type II	Type II a	Type II b	Type II c
学校外 Type III	Type III a	Type III b	Type III c

Type I-a（担当教員・教室内）の教育支援例

スペシャル問題を用意する



<通常の練習問題 例>

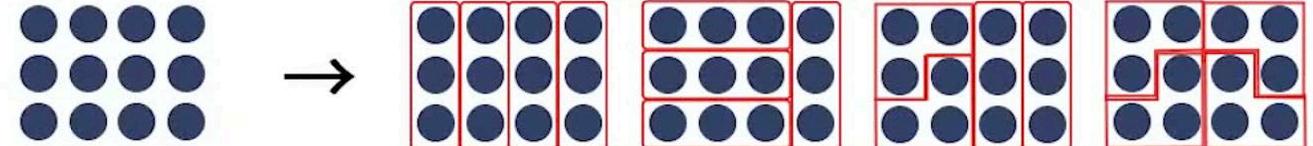
16cmのぼうを同じ長さに4つに切ると1つ分は何cmになりますか？

<スペシャル問題 例1>

12こを4人に等しく分けるとき、どんな分け方がありますか？線でかこんで考えた分け方を説明してください。また分け方をたくさん考えてみましょう。

ア：1列の場合 

イ：2列の場合 

ウ：3列の場合  (小学3年算数の例)

Type I-b（複数教員・教室内）の教育支援例

教科横断的なパフォーマンス課題の設定

（中学3年社会・理科の例）

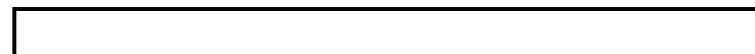
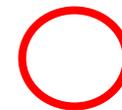


パフォーマンス課題

あなたは資源エネルギー庁の職員です。政府が示した「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」という目標について、一般の人も参加する中での公開討論会を行うことになりました。

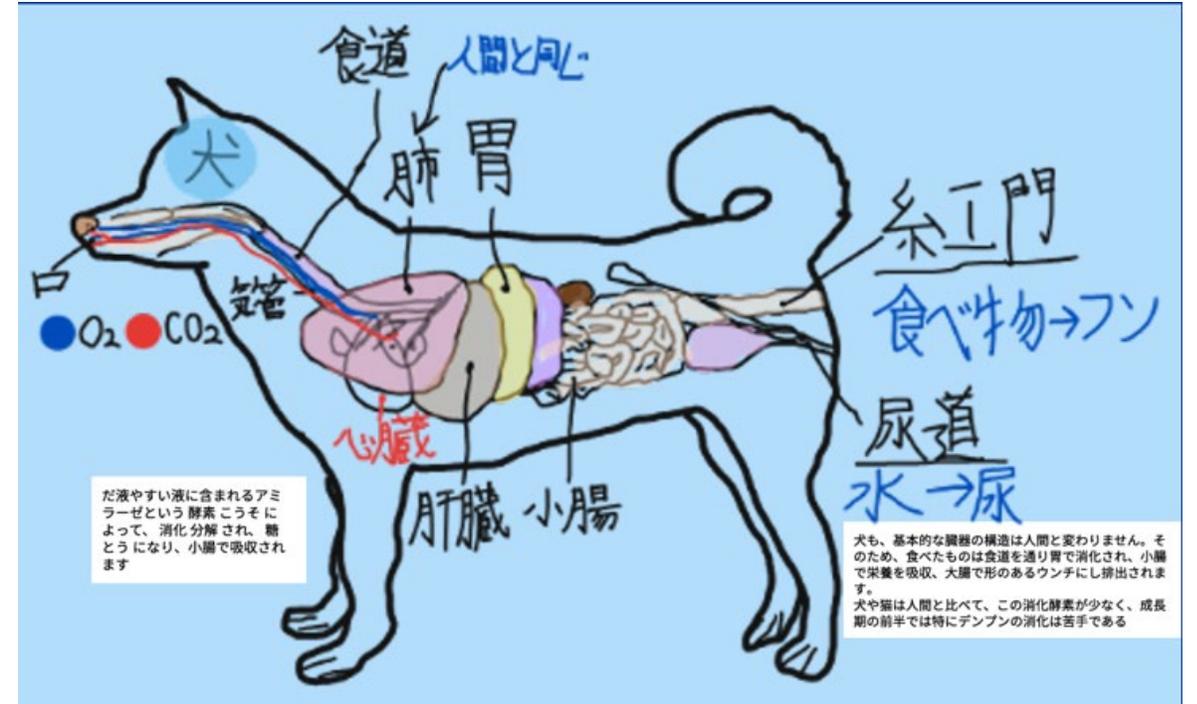
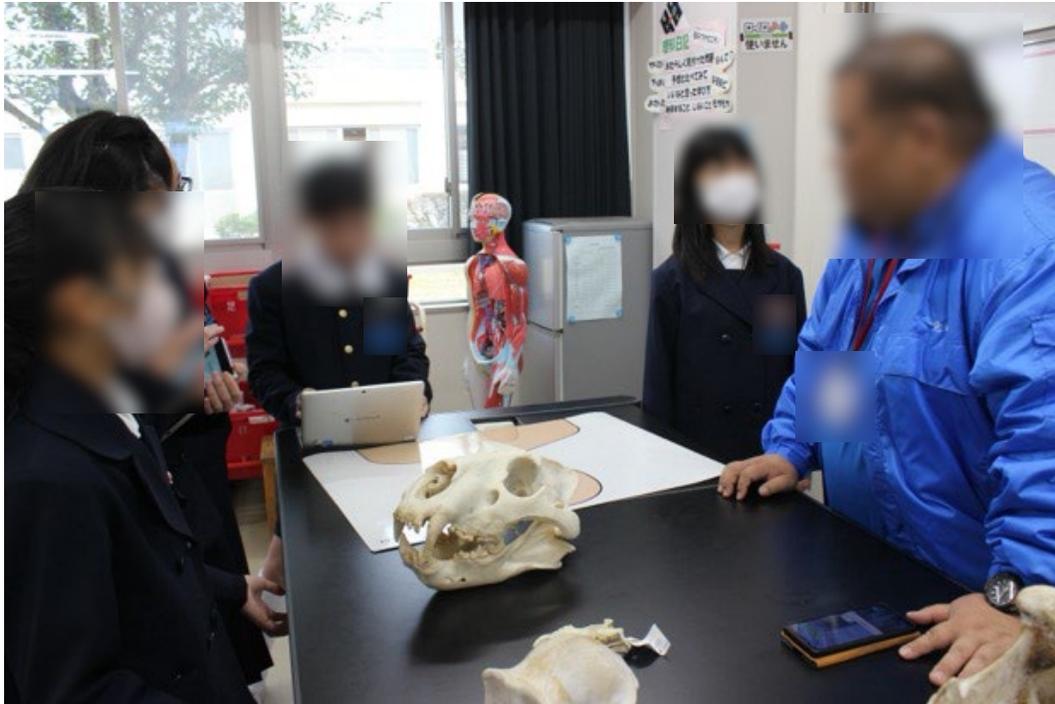
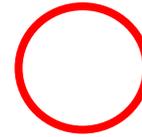
討論会のテーマは「2050年には日本の発電は何を重視していくべきか？」です。

根拠に基づいた発表資料を作成して公開討論会に臨むとともに、そこで得た学びも生かして日本の資源・エネルギーに関わる課題に対する方策と自身の行動宣言をレポート形式でまとめてください。



Type I-c（外部専門家・教室内）の教育支援例

外部専門家による特別授業
(小学6年理科の例)



Type III-c (外部専門家・学校外) の教育支援例 (1)

学校外において専門家から学ぶ

③ケースから考えよう:特異な才能のある高校生
の多様で高い知的関心にとどう応えるか?

生徒の才能の原石は、主体的に取り組む研究活動を通して磨かれる

- 法文学部** 徐福と日本
裁判員制度導入による裁判の変化と国民の反応
消費者問題について考える～インターネット通販との付き合い方～
- 教育学部** アダプトテッドスポーツの可能性～誰でもスポーツを楽しめる社会に～
和製英語の可能性～英語を学ぶ中で生まれた疑問を解決する～
高校数学つまずきの原因とその解消方法について
- 社会共創学部** 金融教育に資する教材の検討～デモトレードの体験を通して～
市之井手水路の記録～身近なものに目を向けて～
地域活性化に向けた興居島の魅力発信～SNSを活用して～
- 理学部** オイラーの多面体定理の証明～平面グラフと数学的帰納法を用いて～
廃棄物から消しゴムを作る～材料による性質の変化～
マツカサガイの人為的成熟誘導

(高校課題研究の例)

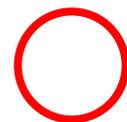
③ケースから考えよう:特異な才能のある高校生
の多様で高い知的関心にとどう応えるか?

大学の先端的研究施設の使用

大学の先端的研究施設の使用

オンライン等を活用し
大学教員から指導を受け
広域でネットワークを構築

(JST次世代科学技術チャレンジプログラムの例)



Cybermentoring System (愛媛大学 隅田 開発)

動画を視聴 → 動画の一場面コメント → コメントへ返信

再生に関わるボタン
{再生、一時停止、再生速度(2倍, 1.5倍, スロー)}

コメントの場面を再生時間で指定
ファイルを添付して送信可

管理者が登録したユーザーが特定の動画のみを試聴でき、動画のシーンとコメントがシンクロし、しおりのような機能を有する。

コメントへ返信可能
指摘したコメントへスキップ

Type III-c（外部専門家・学校外）の教育支援例（2）

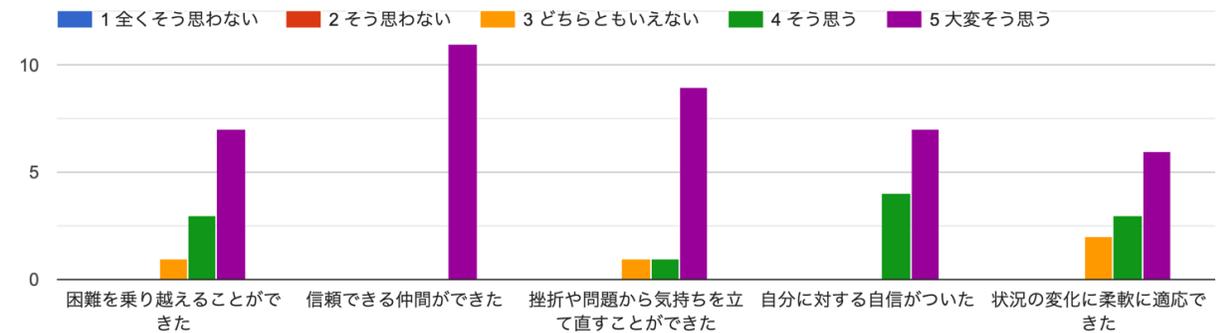
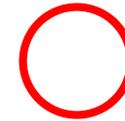
世界の多様な人々の中で挑戦する

② ケースから考えよう

ケース3: 多様な人々の中で挑戦する 世界の才能のある子供たちとつながる



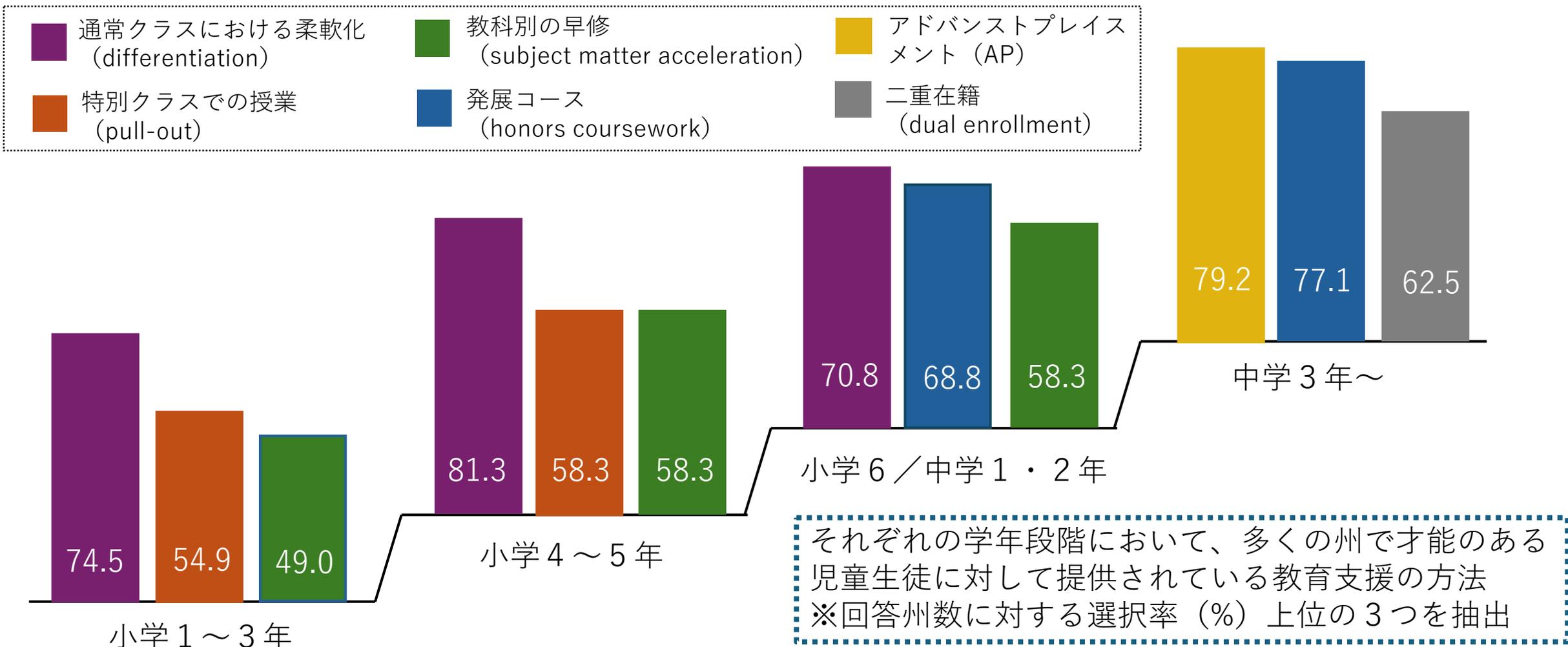
第18回アジア太平洋ギフテッド教育研究大会
(Asia-Pacific Conference on Giftedness 2024)
ユースサミット（2024年8月高松開催）の例



(参加者による感想を一部抜粋)

- ・このまま自分の世界だけ見て生きてたらユースサミットで出会った子供のような子には出会えませんでした。ユースサミットに行ったことで世界が広がりました。そんな機会を作ってくださったことにとっても感謝しています。
- ・APCG2024ユースサミットに参加して、将来の夢が見つかり、今しなければならないことや、したいことが見つかりました。そして、今回での経験で、諦めずに伝えたり、人とのコミュニケーションを大事にしていきたいです。
- ・先生やスタッフの方たちを見ていて海外の人たちと関わり、お互いが交流する場を設けたり今回のユースサミットのようなイベントをサポートしたりするお仕事はとても大変そうだけど楽しそうに興味を持ちました。

教育支援の方策は児童生徒の成長や環境に伴い変化する（米国の例）



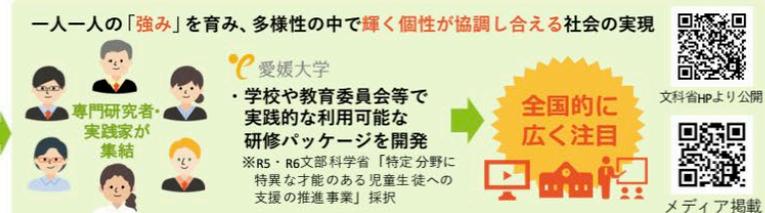
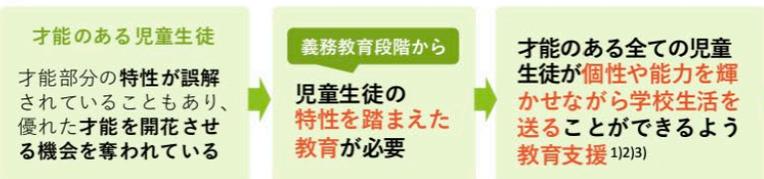
Rinn, A. N., Mun, R. U., & Hodges, J. (2022). *2020-2021 State of the states in gifted education*. National Association for Gifted Children and the Council of State Directors of Programs for the Gifted. より一部抜粋して作成

「才能教育センター（Centre for Gifted Education and Talent Development）」

日本初

教育学部附属才能教育センターの設置について E.U. Centre for Gifted Education and Talent Development

1. センター設置の背景



1) 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』を答申(2021)
2) 文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議・審議のまとめ」(2022)
3) 文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」を開始(2023)

2. センター設置の目的

子供一人一人の「強み」を育む

特定分野に特異な才能のある児童生徒の教育へ理論的基盤と実践的指針を提供

多様性の中で輝く個性が協調し合える社会の実現

3. 主な活動内容



- #### 4. 実績
- 2024年The 18th Asia-Pacific Conference on Giftednessを日本初開催 ※26ヶ国・地域から420名の参加者
 - 2023年・2024年 文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業（新規事業）」「(1)特異な才能のある児童生徒に関する研修パッケージの作成」 ※連続して全国で1件のみ採択
 - 2020年 Gifted Academia オンラインセミナーを開始 ※現在635名のフォロワーが登録
 - 2019年度 教育学部教職専門科目として「才能教育論」を開講
 - 2011年度～2021年度 教員免許更新講習「才能ある子どもの個性や能力を伸長する教育」を開講
 - 2010年 Kids Academiaプログラムを開始 ※現在214名の子供が登録 2013年野依科学奨励賞受賞

- | | |
|-------|------------------|
| 隅田学 | 才能教育・科学教育（センター長） |
| 中野広輔 | 特別支援医学（副センター長） |
| 井上昌善 | 社会科教育 |
| 苅田知則 | 特別支援心理学 |
| 清田朗裕 | 国語科教育・言語学 |
| 河野美千代 | 教育実践学 |
| 立松大祐 | 英語科教育 |
| 田中雅人 | スポーツ教育学 |
| 玉井輝之 | 技術科教育 |
| 向平和 | 理科教育・生物教育 |
| 吉村直道 | 数学教育 |
| 宮本春奈 | （附属幼稚園） |
| 水口達也 | （附属小学校） |
| 真木大輔 | （附属中学校） |
| 川本孝 | （附属特別支援学校） |
| 横山泰士 | （附属高等学校） |
| 大山くらら | （附属高等学校） |
| | （+ 客員教授等も予定） |

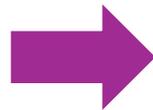
学校・家庭・社会が連携し、子供一人一人の「強み」を育み、多様性の中で輝く個性が協調し合える社会の実現へ向けて

「子供」は多様である。「才能のある児童生徒への教育」という新たな空間軸が導入されることにより、学校と社会が連動する包摂的共生の契機となる。

子供の多様性 = 教育課程の多様性

- 子供たちの「強み」を見出すためには、多様性の中で挑戦する機会が必要
- 子供たちの「強み」を育むためには、継続的な支援とネットワークが必要

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a		
学校内 Type II			
学校外 Type III			



特異な才能のある児童生徒は自分たちの特性を理解し、可能性を引き出してくれる教師、仲間、社会を必要としている。



次期学習指導要領への期待

- 令和4年の文部科学省有識者会議の「とりまとめ」に基づき、令和5年度以降、現行の制度的枠組みの中で、実証研究が行われ、事例創出や知見の蓄積が進みつつある。
- 「とりまとめ」では次期学習指導要領などの制度的改善も必要に応じて進めるべきとされている。
- 特異な才能のある児童生徒の性質上、網羅的な実態把握は困難であり対応は途上。
しかし、特異な才能のある児童生徒は全国の学校に間違いなく存在し、特性に応じた支援を要している。「実態が分からないから様子見」ではなく、「全国に潜在する特異な才能のある児童生徒の実態を明らかにしていくためにも政策的・制度的対応を進める」というスタンスが大切ではないか。
- こうした経緯やスタンスを踏まえ、特別の教育課程の編成・実施を可能とし、特定分野に特異な才能のある児童生徒を包摂する取組を後押ししていく必要がある。
- その際、指導・支援は、学級集団での指導の個別化を図りつつ、学校外の専門性の高いリソースとも連携した学びを提供し、特定分野への強い興味・関心を支え、可能性を引き出し、安心して学校生活を送る上での基盤を形成することが望ましいのではないか。